

小数のわり算 授業アイデア例（5時／13時）

〈本時の目標〉

- ・純小数で割ると、商は被除数より大きくなることが理解できる。

〈本時で期待する児童の姿〉

- ・数直線と計算の結果を関連させて、純小数で割ると、商は被除数より大きくなることを理解し説明することができる。



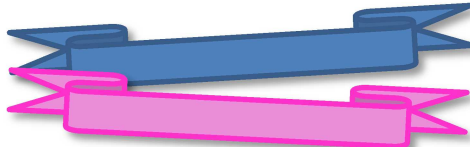

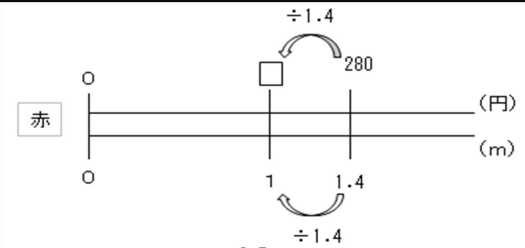
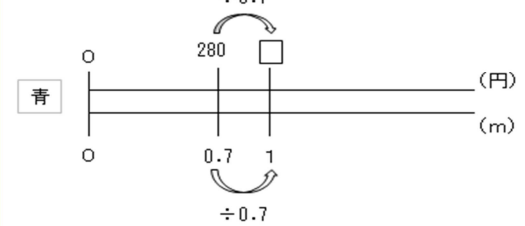
〈アクティブ・ラーニングの視点に立った授業づくりの工夫〉

除数が1より小さいと商が被除数より大きくなることに気付く

- ・被除数と商の大きさの関係を、数直線を使って調べさせる。
- ・自分の考えをグループで説明し合い除数と商の大きさに着目し、被除数との関係性を見いださせる。

答えを導き出す過程を考えさせたり説明させたりし、「見方・考え方」を成長させる工夫をしました！



段階	学習活動
学習課題の把握・見通す	<p>1. 問題を捉える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>問題：1.4mの代金が280円の赤色のリボンと、0.7mの代金が280円の青色のリボンがあります。 1mの値段はそれぞれいくらですか。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; background-color: #ffe6e6;"> <p>図工や総合的な学習の時間でリボンを使用する場面を想起させ、それぞれ1m当たりの値段を求めさせる。</p> </div> <p>2. 解決の見通しを持つ。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: flex-start;"> <div style="width: 45%;"> <p> 赤色と青色のリボン、それぞれの1mの値段の見当を付けてみましょう。</p> <p> 赤色のリボンは、1mだと280円よりも安くなると思います。</p> </div> <div style="width: 45%; text-align: center;">  <p> 青色のリボンは、1mだと280円よりも高くなると思います。</p> </div> </div>
自力解決	<p>3. 数直線や言葉と式を関連させて解き方を考える。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;">   </div> <div style="width: 45%; background-color: #ffe6e6; padding: 10px; border: 1px solid black;"> <p>数直線を用いて、商が被除数より大きくなる場合があることを捉えさせる。</p> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> <p>代金 ÷ 買った長さ = 1mの値段</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>赤色のリボン 式 $280 \div 1.4 = 200$ 答え 200円</p> <p>青色のリボン 式 $280 \div 0.7 = 400$ 答え 400円</p> </div>

4. 課題を把握し、グループで2つの答えを対比させ、今までの学習との違いを見付ける。



自分の考えと友達の考えを交流して、割る数の大きさと商の大きさの関係を探りましょう。

純小数で割ると被除数より商が大きくなることに交流を通して気付かせる。

課題：「割る数」の大きさと「商」の大きさを調べ、発見を伝え合おう。

集団解決

数直線で見ると、青のリボンの1mの値段は、280円より高くなっていることが分かります。



割る数が1よりも小さいと、商が割られる数より大きくなっています。

5. 全体で話し合う。



割る数と商の大きさを調べ、発見したことを発表しましょう。発表を聞いて思い付いたことも発表しましょう。

そうか。1が基準になると思います。割る数が1だと商と割られる数は同じ。割る数が1より大きいと割られる数は小さくなります。

割る数が1より小さいと、商は割られる数よりも大きくなると思います。



6. 学習内容をまとめる。



今日のまとめを「割る数」「1」「商」「不等号・等号」「割られる数」を使ってまとめましょう。

割る数 < 1 → 商 > 割られる数
割る数 = 1 → 商 = 割られる数
割る数 > 1 → 商 < 割られる数になります。



まとめ・振り返り

7. 適用問題に取り組む。(教科書P54 $\triangle 5$ $\triangle 6$)

8. 新しく分かったことについて振り返る。



今日の授業で、友達の考えなどから新しく分かったことをノートに書き、隣の人に伝えましょう。

ノートに書き、何を学んだかを明らかにさせる。



割る数が1のときは、割られる数と商は同じで、割る数が0.7になると、商が割られる数より大きくなっていることを発見できました。

1より小さい数で割ると、商は割られる数より大きくなるのが、グループで話し合って分かりました。

